

彼方 「かなた」

校長通信
H25.12.13
Vol.29

【期末保護者会で伝えたかったこと】

保護者の皆さん、湖北中の学校教育目標『自主貢献』、覚えていただけたでしょうか？「自主的に判断・行動し、助け合える生徒」です。

実際にTPOに合わせて、自分で適切に判断・行動するのはなかなか大変です。今学期も、



言っていないことを言ってしまったり、やっちはいけないことをやってしまったりと、多くの失敗がありました。でも、その失敗をひとつひとつ乗り越えた生徒は、着実に成長（変容）してきました。

取り返しのつかない失敗は、絶対にさせないようにしています。そして、**できるだけ多くの問題を自分たちで解決させるように指導したい**と思っています。その繰り返しですが、経験値を増やし、適応力や判断力を伸ばします。ところが、最近の傾向は、大人が転ばぬ先の杖を突き過ぎることです。やる前から転んだときの言い訳を考えてどうするのって感じですか。どうせなら、転んだ後の起き方を一緒に考えてあげる大人でありたいと思います。

もうひとつ大切なことは、**同じ失敗を何度も繰り返さない**と言うことです。人間は、「習性になる」と昔から言われるほど環境に順応する生き物です。

良い生活を続ければそれが当たり前になります。逆にダメなことを続けると生まれつきダメなことをする人間だったのではないかと本人も周りも思ってしまう。そうすると「どうせ自分なんか…」という

ようなメンタルブロックが作られ、ますます自己肯定感が持てなくなり、そうならないように早いうちに行動改善しなければならぬのです。

例えば、家庭学習をしないで困っている子に、一方的に「勉強しなさい」と言ってもなかなかやりません。それより「どうやったら勉強するようになる？」と解決策を探り、できる時間を三十分でも決めさせて、自分から取り組ませるようにすると、まったくやらなかった子が少しはやるうとする姿に変わります。つまり行為の変容が生まれるのです。

湖北中にはダメな子や悪い子は一人もいません。やっていることがダメだったり、嫌がることをしているだけです。少しでも早くそのことに気づき、改善し、良い生活リズムを創り

上げればよいだけなのです。人間性が悪いのではなく、行為がダメなだけです。だから

行動を変えることに全力を尽くせばよいのです。

口で言うのは簡単ですが、それを続けていくのは難しい



ものです。三日も続かないという生徒もいます。その時大切なのが周囲の支えです。続くかどうかは本人の問題ですが、それを支える人間がその周りにいるかどうかでかなり違います。三日坊主を四回続ければ、十五日のうち十二日間はできます。できない言い訳を考える前に行動することが大切なのです。まずは一日やってみることで、一歩踏み出させることが大切なのです。

そのためには、学校と家庭が連携しなければなりません。保護者と先生が直接話すこともせず、学校が家庭の文句を職員室で言ったり、保護者が担任や顧問、学校の悪口を子どもと一緒に話して話したりしていたのでは、連携どころの話ではありません。保護者が信頼していない学校に毎日通い、学校が不信心を持つ家庭に毎日帰っていく、これでは子どもが可哀想過ぎます。互いの不信心は、子ども達にとって百害あって一利なしです。

体育祭で頑張っていた姿、授業に真剣に取り組んでいた姿、息を合わせて歌っている姿、汗を流している姿、どの生徒も頑張りたい、できるようになり



たいと思っています。今学期は多くの生徒が素直に自分の成長を感じてくれたのではないかと思います。いよいよ来学期は、卒業、進級を迎えます。よいまとめができるようにサポートしていきたいと思っています。